

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第2区分

【発行日】令和6年10月16日(2024.10.16)

【国際公開番号】WO2023/149564

【出願番号】特願2023-578655(P2023-578655)

【国際特許分類】

C 0 7 H 2 1 / 0 2 (2 0 0 6 . 0 1)

C 0 7 H 1 / 0 2 (2 0 0 6 . 0 1)

C 0 7 H 2 1 / 0 4 (2 0 0 6 . 0 1)

10

【 F I 】

C 0 7 H 2 1 / 0 2

C 0 7 H 1 / 0 2

C 0 7 H 2 1 / 0 4 A

【手続補正書】

【提出日】令和5年6月8日(2023.6.8)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

20

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

オリゴヌクレオチドを製造する方法であって、

(a) 担体に直接的または間接的に担持され、3'位または5'位の水酸基、チオール基またはアミノ基に保護基が結合している、保護ヌクレオシドから前記保護基を脱離させる工程、

(b) 保護基が脱離した、担体に直接的または間接的に担持されたヌクレオシドの3'位または5'位の水酸基、チオール基またはアミノ基にヌクレオシドホスホロアミダイトを活性化剤の存在下で結合させる工程、

30

(c) 工程(b)により形成された結合を硫化または酸化する工程、

および

(d) 担体に直接的または間接的に担持されたヌクレオシドにおける未結合の3'位または5'位の水酸基、チオール基またはアミノ基をキャッピングする工程、

を含み、

(a) ~ (d) のいずれかの工程における溶液の温度が5 ~ 19 °C である、前記方法。

【請求項2】

前記工程(b)において使用する前記ヌクレオシドホスホロアミダイトの量が、前記担持されたヌクレオシドの1.0 ~ 2.0倍当量である、請求項1に記載の方法。

40

【請求項3】

(a) ~ (d) のいずれかの工程における溶液の温度が5 ~ 15 °C である、請求項1または2に記載の方法。

【請求項4】

前記活性化剤が、4,5-ジシアノイミダゾール、5-(エチルチオ)-1H-テトラゾール、5-(ベンジルチオ)-1H-テトラゾールおよびサッカリン1-メチルイミダゾールからなる群から選択される、請求項1~3のいずれか一項に記載の方法。

50